山形浩生の世界を読み解く叡智

Yamagata Hiroo

結局、そういうことだ。

日本にいるとつい、「いまや世界の目は日本を注視している」と思ってしまいがちだけれど、欧米のまともなメディアを見るとそんなことは全然ない。なぜかといえば……。状況に変化がないので、新しく伝えるネタがないのだ。震災処理は相変わらず、原発も相変わらず。政府も相変わらず。

ちなみに、一部の自称識者は、日本のメディアは政府とつるんで情報隠蔽していて、外国メディアのほうが信用できるとのたまっていたが、往々にして各種報道の食い違いは外国メディアのほうの勇み足だったりする。かれらだって自分で原発に突入できるわけじゃなし、情報源は東電や日本政府しかないのだもの。

ではこの4月上旬、国際的なメディアが何に注目していたかといえば、リビアだ。北アフリカの一連の民主化デモが飛び火し、デモ鎮圧でカダフィが一般人を虐殺するに至って軍の一部も造反、国内の反カダフィ勢力と組んで雪だるま式に盛り上がり、一時はカダフィ勢をトリポリに追い詰めたものの、反攻にあって劣勢になったところで多国籍軍が加勢。執筆時点では、カダフィが和平提案をのむようなのまないような、はっきりしない状況にある。

さてこのリビア情勢は、日本からは遠いし、日本はいまそれどころじゃない事情もあるのであまり報道もされない。そして、すぐに健康に影響が出るレベルの話ではない。

が、長期的にはきいてくるだろう。それはやはり原油の生産にかかわってくる。リビアの原油の産出量はサウジアラビアほどではないにしても、かなりの水準に達する。多国籍軍の攻撃も、カダフィによる市民虐殺が口実ではあるけれど、やはり石油の安定供給目当てといわれても仕方あるまい。いちばん熱心だったのは、パイプラインでつながっている欧州各国でもあったし。

ちなみに反カダフィ勢は、当初は「石油目当ての外国の支援はいらん！」といきまいていたものの、劣勢になると多国籍軍サマサマ状態。まあ背に腹は代えられないので、仕方ないだろう。とはいえ、問題はこの後だ。カダフィは本当に和平に応じるのか？　和平交渉が決裂して内戦が慢性化したら、当然ながら原油採掘とパイプラインにも影響が出る。そうなると、世界の原油供給も逼迫することになるだろう。今後、原発が動かせなくて化石燃料（主に天然ガスなので、石油とは直接関係しないにしても）に頼らざるを得ない日本にとっても、かなり高い買い物を余儀なくされるということでもある。

本当は、こういうリスクがあるからこそ脱石油のために原発を、というのもかつての安全保障の論理としては強かった。が、いまやもちろん、原発のリスクのほうが圧倒的に顕在化してしまっており、そんな議論を持ち出す余裕もない状況ではある。でも、実際に財布を出す段になれば、やはりみんな文句を言うことにはなるだろう。

そういう事態にならないことをみんな祈っている。これですっぱり戦闘がおさまり、カダフィが責任取って退陣して二度と顔を見せず、あとは何事もなかったように日常回復……エジプトやチュニジアは、それに近い状態になりそうだ（まだわからないが）。が、リビアはすでに結構な回数で、かなりの交戦が行われており、死者も多数出ている。何もなかったような顔はしにくいんじゃないか。カダフィだって、大人しくひっこむ柄じゃないし……。

実は多国籍軍攻撃前夜、イギリスの『エコノミスト』は驚いたことに、多国籍軍はカダフィを重点的に見つけ出して殺せ、とはっきり述べていた。一応、国際的な決まり事としてそういうことはやっちゃいけないことになってはいる。でも、カダフィがいなければ現政府軍はまとまりをもつし、トリポリは2週間で陥落する。混乱を長期化させないためにはそのほうがいいのだ、と。

幸か不幸か、今回はそういう事態にはならなかったわけだが、すると話をどこに落とせばいいのか、現時点ではまだだれにもわからない。

震災復興で大変だからどうしても内向きになりがちだが日本がリビア情勢に無縁ではいられない理由がある

リビア空爆

国連決議に基づいて出動した米・NATO軍は3月19日より攻撃を開始した。中心となるのは米英仏の3ヶ国で、仏軍はラファール戦闘機(写真右)とミラージュ2000戦闘機、英軍はトーネードIDS攻撃機(写真左)とタイフーン戦闘機を航空戦力の主力として投入している。（写真提供：山崎龍）

Yamagata Hiroo

著作・翻訳家。1964年、東京生まれ。東京大学およびMIT修士課程修了。某大手シンクタンク勤務の傍ら、経済、ITなどの分野で活躍。『要するに』（河出文庫）、『たかがバロウズ本。』（大村書店）など多数。http://cruel.org/jindex.html

●ヤマガタ近況● 先月の今頃は、一ヶ月もすればもうすべて落ち着くだろうと思っていましたが、地震も原発も政府の無能ぶりもここまでひきずるとは……

magx_2011_vol23.indd 88 11/04/14 4:17